

Perspective taking: Imagining How Another Feels Versus Imagining How You Would Feel

視点取得: 他者がどう感じるかを想像することと、あなたがどう感じるかを想像すること

Batson, C. D., Early, S. Salvarani, G. (1997) Perspective taking: Imagining how another feels versus imagining how you would feel. *PSPB*, 23(7), 751-758.

Rep. 小森めぐみ¹.

ABSTRACT

他者がどう感じるかを想像することと、あなたがどう感じるかを想像することは、よく混同されてしまうけれども、それぞれ別の視点取得の形態であって、異なる感情を生じさせる。前者は共感をみちびくが、後者は共感と苦痛(distress)の両方をもたらすのだ。この主張を検討するために、大学生が助けを深刻に必要としている女性が話をしている、ラジオインタビューの試験放映を視聴した。三分の一の学生はインタビューを聞いている間に客観性を保つよう指示された。残りの学生の半分はその若い女性がどう感じたかを想像するよう指示され、もう半分は自分が彼女のような状況に陥った場合にどう感じるかを想像するよう指示された。二つの視点想像は別の感情パターンを導き、この結果は異なる動機をもたらした。他者がどう感じるかを想像した場合には共感が生じ、それが愛他的動機を導くことがわかっている、自分がその状況でどう感じるかを想像した場合には、共感だけでなく個人的苦痛も生じ、それは自己中心的な動機をもたらすことがわかっている。

Two ways of perceiving the other's situation

- ① imagine-other : 他人がその状況をどう知覚し、その結果どう感じるのかを想像する
 - ② imagine-self : 自分自身がその人の立場にいる場合に、自分がどう感じるのかを想像する
- ・ Stotland(1969)は、imagine-self と imagine-other に見られる違いを報告
 - どちらの視点取得も客観的視点よりも心理的喚起や感情（自己報告）を高める
 - imagine-other は血管収縮を示す
 - “モデルがその時点でもっていると考えられた感情に反応している” と解釈された
 - imagine-self は掌に汗をかき、緊張感を報告
 - “モデルの経験にそれほど根ざしたものではない” 自己志向の感情反応と解釈
 - ・ しかし、その後の研究では二つは混同され、imagine-self でも imagine-other でも本質的には同じ心理プロセスを経ていると考えられてきた(cf. Aderman, Brehm, & Katz, 1974; Davis, 1994…)

Distinguishing empathy from personal distress

- ・ 他者の助けにたいして生じる感情反応は二種類あることが知られている
 - 共感: 他者志向の感情反応で、助けを求めている人の窮状に適合(congruent)する感情²
 - 個人的苦痛(personal distress): 自己志向の感情反応で、助けを求めている人の窮状を目にしたときに直接感じる攻撃的な感情反応³。
- ・ 前者は愛他的動機を高め、後者は自分の不快感を取り除こうとする自己本位な(egoistic)動機を高める。

¹ 一橋大学大学院博士課程。

² 共感を示す形容詞として、思いやりのある(sympathetic)、情け深い(softhearted)、温かい(warm)、哀れみ深い(compassionate)、優しい(tender)、心を動かされた(moved)などがある。

³ 個人的苦痛をあらわす形容詞として、不安を感じる(alarmed)、悲嘆に暮れる(grieved)、心を傷める(troubled)、苦しんでいる(distressed)、動揺している(upset)、動転している(disturbed)、心配している(worried)、うろたえている(perturbed)などがある。

Emotional consequences of the two perspectives

- 本研究では、二種類の感情についての話と Stotland(1969) を結びつけた予測を行う
 - imagine-other は共感を高めるだろう
 - imagine-self は共感と個人的苦痛の両方を高めるだろう⁴

A complication: two types of distress

- 共感と個人的苦痛は一般的にはわけられるものだが、測定が困難
 - たとえば、”distress” という形容詞は、重傷を負った他者を見た際にはその人が苦しんでいるところを見たことで生じる直接的な個人的不快感といえるが、より鈍い不快感(たとえば孤独)を感じている他者に会って不快に思った場合には、助けを求めている人のために感じる不快感を覚えているといえる。
 - 共感を他者の幸せになることに congruent な方向での他者志向の感情反応と考えるなら、後者の反応も共感として考えられる
- 二つを区別するために、本研究では苦痛が自分へのものか、相手へのものかを尋ねた。(物理的な痛みがないような状況では、) imagine-other で感じられるのは共感的な苦痛であり、imagine-self で生じるのは共感的な苦痛と直接的な苦痛がまじりあったものと予想される。

Selecting a need situation

- imagine-other 教示で生じる共感が、助けを求めている他者のための苦痛とも解釈できるような状況を用意することが重要
- この文脈で最もよく用いられているのは、両親を交通事故で亡くし幼い弟妹の世話をしなくてはならなくなった Katie Banks の話である(Batson et al., 1989; Batson et al., 1991)

方法

Participants

- 大学生 60 名(男 30 女 30)が授業の追加点と引き換えに実験に参加した。10 名の男女が客観条件、imagine-self 条件、imagine-other 条件のそれぞれにランダムに割り当てられた。
- Katie がほんとうに助けを求めているのかを疑問視した 4 名は分析から除外された。

Procedure

- 個別実験。参加者は大学の公共ラジオ番組のテスト放送として、News From the Personal Side という番組を視聴した。参加者はテープを聞いている間、特定の視点をとるよう教示された。

⁴ imagine-self では個人的苦痛しか高まらない方が対称の仮説だが、特に状況が比較的目新しく、他者の感情があからさまではないような場合には、imagine-self は他者の感情の重要な情報源であり、共感への足がかりともなりえるため、上記のような予測になった

『この放送を聞いている間…

- ◇ 客観教示条件：インタビューを受けている人物に何が起り、それがその人の人生にどう影響するかについて、できるだけ客観的になってください。客観的であるために、その人がどのような目に遭い、その結果どう感じたのかなどは想像しないようにしてください。客観的になり、離れた視点をとるようにしてください。』
- ◇ imagine-self 条件：あなた自身がインタビューを受けている人物に起きたことを経験したらどのように感じるか、それがあなたの人生にどう影響するかについて、想像してみてください。すべての情報に目を向けることを気にかけてはいけません。あなた自身がどのように感じるかを想像することに集中してください。』
- ◇ imagine-other 条件：インタビューを受けている人物が、自分に起きたことやそれが自分の人生に働影響するかについてどう感じているのかを想像してください。すべての情報に目を向けることを気にかけてはいけません。あなた自身がどのように感じるかを想像することに集中してください。』

- ・ 教示は椅子の上に置いてあり、参加者はそれを読んだ後テープを聞き、質問に回答した。

Encounting Katie Banks' s need (テープの内容の説明。略)

Dependent measures

- ・ テープ終了後、参加者は2部構成の質問紙に回答した。
 - 第一部：異なる感情状態を記した26の形容詞（うち、共感関連形容詞6、個人的苦痛関連形容詞8⁵⁾）のそれぞれについて、テープを聞いている間に感じたかを7件法で回答
 - 第二部：苦痛をあらわす4つの形容詞(distressed, upset, troubled, grieved)の性質が尋ねられた。まず、苦痛には自分が嫌な経験をしたように感じる直接的なものと、誰かのために感じるものがあることが説明され、その後、参加者が感じた苦痛にはそれぞれの形態の苦痛がどの程度あったのかが9件法で尋ねられた（4形容詞×2種類=8項目）。

Ancillary measures

- ・ その他の測度として、ラジオ番組の評価が尋ねられた。操作チェックとしてその中に“インタビューされていた人物はどの程度助けを必要としていたか”という項目が9件法で尋ねられた。また、どの程度それぞれの教示に従おうとしたかが、それぞれ9件法で尋ねられた。

結果と考察

Perception of Katie' s need

- ・ Katieはどの程度助けが必要かという質問への回答は条件間で差がなかった（各条件のMは8.05~8.35、全体Mは8.22、 $F(2, 57) = .50, ns.$ ）。性別の効果も見られなかった。

Effectiveness of the perspective taking manipulation

- ・ 客観教示条件の参加者(M=6.80)は、二つの視点取得教示条件(imagine-other M=5.40, imagine-self M=5.60)よりも、より客観的であることに集

	客観	other	self
try客観	6.80	5.40	5.60
tryKatie	?	7.70	7.75
try自己	5.05	6.50	7.55

⁵⁾ レジュメ1ページ注釈参照

中していたと答えた($t(57)=2.29, p<.03$. imagine-self vs. otherは $t<.50$)。逆に、二つの視点取得指示条件は、客観指示条件よりもより感情に集中したと答えた($ts>5.00, ps<.001$)。

- imagine-other と imagine-self 条件のちがいはもっと曖昧だった。imagine-other 条件の参加者は自分自身($M=6.50$)の感情よりも他者の感情($M=7.70$)に集中していた($t(19)=2.85, p<.01$)が、客観条件の参加者($M=5.05$)と比べると、より自分自身の感情に集中していた($t(57)=4.88, p<.001$)
- imagine-self 条件の参加者は、自分自身の感情($M=7.55$)にも、他者の感情にも($M=7.75$)集中しており、有意な差は見られなかった($t(19)=.68, ns.$)。
- この結果は、imagine-other と imagine-self 条件の参加者の視点は、異なるところもあるが、重なることも多いことを示している。

Effect of perspective taking on empathy and distress

- 共感を測定した形容詞から warm を抜かした 5 項目($\alpha=.85$)と、苦痛を測定した形容詞 8 項目($\alpha=.93$)をそれぞれ合算し、平均を共感指標、苦痛指標とした。

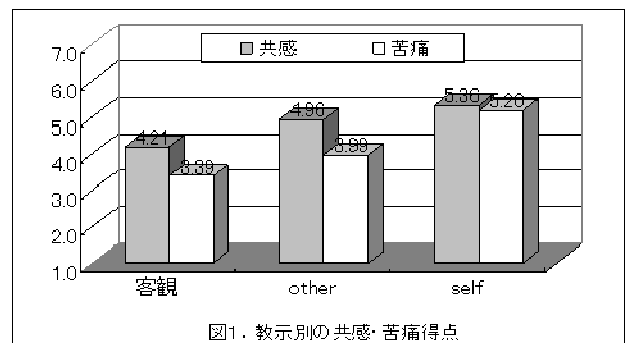
共感と苦痛は別の種類の感情か、それとも？

- まず全形容詞を対象にした主成分分析を行った結果、形容詞はみな似た分散をもつことがわかった。固有値 1.0 以上の成分は 3 つあったが、スクリーテストの結果、一つの成分にまとめることが最も望ましかった。共感指標の形容詞も苦痛指標の形容詞も .60 以上の寄与を示していた。
- これは幾人かの参加者は苦痛指標に共感的に回答していた結果と解釈することができる。第二部の分析によってこの解釈を検討した。

各指標の得点はテープの聞き方によって違ったか？

- 指標に対して感情の種類(共感/苦痛)×視点(客観、imagine-self, imagine-other)のANOVAを実施したところ(Table1参照)、感情の種類の主効果($F(1, 57)=22.21, p<.001$)と視点の主効果($F(2, 57)=8.10, p<.001$)、交互作用が有意($F(2, 57)=3.24, p<.05$)。

- 事前の予測に従って計画比較を実施したところ、二つの視点取得条件と客観条件の間に有意な共感指標の得点差が見られた($t(57)=2.76, p<.01$)が、視点取得条件二つの間に有意差は見られなかった($t=1.01$)。
- imagine-self 条件の参加者と客観、imagine-other 条件の参加者の間に有意な苦痛指標の得点差が見られた($t(57)=4.22, p<.001$)。imagine-other 条件と客観条件の間に有意差は見られなかった($t<1.47$)。
- imagine-other 条件では共感($M=4.96$)が苦痛($M=3.99$)よりも高く($t(19)=3.97, p<.001$)、imagine-self 条件では共感($M=5.36$)と苦痛($M=5.20$)はどちらも高得点で差は見られなかった($t(19)<.64$)。

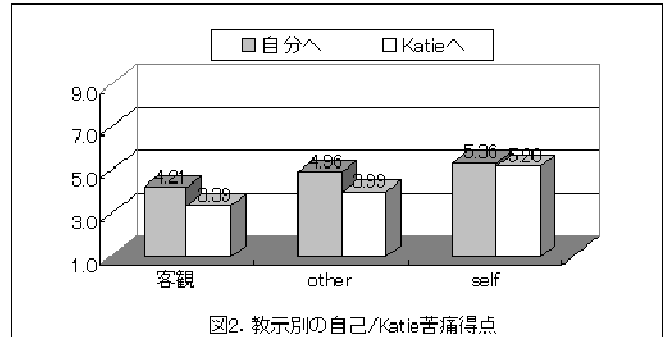


Nature of distress in each perspective taking condition

- 第二部での質問 8 項目(自己へ/Katie へ×苦痛 4 項目)を、自己への(直接的な)苦痛($\alpha=.97$)と他者(Katie)への苦痛($\alpha=.95$)に分けて指標とした。

- 指標の得点に対して、苦痛の種類(自分/Katie)×教示の混合計画の分析(前被験者内要因)を実施したところ、苦痛の種類の主効果($F(1, 57)=98.73, p<.001$)、教示の主効果($F(2, 57)=9.98, p<.005$)、交互作用($F(2, 57)=3.76, p<.03$)すべてが有意だった。

- 事前の予測に従って計画比較を実施したところ、二つの視点取得条件と客観条件の間に有意なKatieへの苦痛得点が高く($t(57)=3.16, p<.005$)、二つの視点取得条件間に有意差は見られなかった($t=1.01$)。
- imagine-self 条件の参加者と客観、imagine-other 条件の参加者の間に有意な自分への苦痛指標の得点差が見られた($t(57)=4.50, p<.005$)。



imagine-other 条件と客観条件の間に有意差は見られなかった($t<1$)。

- imagine-other 条件も imagine-self 条件も Katie への苦痛($M_s=6.96, 7.44$)が自分への苦痛得点($M_s=3.41, 5.69$)を上回った($t_s(19)=7.55, 3.00, p<.001, p<.01$)が、感情の種類の違いは imagine-other 条件の方が大きく、交互作用が見られた($F(1, 38)=5.76, p<.03$)⁶。
- 第一部の苦痛指標と第二部で尋ねた二種類の苦痛指標との相関も仮説を支持する方向であった。
 - imagine-other 条件では、苦痛指標と Katie 苦痛指標の相関($r(18)=.76, p<.001$)は、苦痛指標と自己苦痛指標の相関($r(18)=.40, p<.10$)よりも強かった($t(17)=1.99, p<.07$) (Katie 苦痛指標と自己苦痛指標の相関は.31, ns.)。
 - imagine-other 条件では、苦痛指標と Katie 苦痛指標の相関($r(18)=.25, p>.25$)は、苦痛指標と自己苦痛指標の相関($r(18)=.77, p<.001$)よりも弱かった($t(17)=2.60, p<.02$) (Katie 苦痛指標と自己苦痛指標の相関は.04, ns.)。
 - どちらの条件でも共感指標と Katie 苦痛指標の相関は高く($r_s(18)=.74, .52, p<.05, .001$)、共感指標と自己苦痛指標の相関は低かった($r_s(18)=.23, p>.30$)。相関の違いも有意だった($t(37)=2.15, p<.04$)。

	客観	other	self
苦痛—自己	?	0.4	0.77
苦痛—Katie	?	0.76	0.25
自己—Katie	?	0.31	0.04
共感—Katie	?	0.74	0.52
共感—自己	?	0.23	0.23

Implications

- 本研究では、しばしば混同される二つの形態の視点取得がそれぞれ異なる感情を引き起こすと予想した。助けが必要な他者の気持ちを想像することは他者志向の感情である共感を生じさせ、自分がどう感じるかを想像することは自己志向の感情である個人的苦痛につながると予想した。
- 他者の気持ちを想像した参加者は、苦痛よりも共感を感じており、また、客観的である条件の参加者よりも共感を感じていた。この条件の参加者は、自己への苦痛を高く、他者志向の苦痛を低く感じていた。
- 反対に、自分の気持ちを想像した参加者は、苦痛と共感の両方を同じ程度、客観的である条件の参加者よりも感じていた。この条件の参加者は自己への苦痛も他者志向の苦痛も高いレベルで感じていたと答えた。

⁶ おそらく視点(self/other)×感情の種類(empathy/distress)のANOVAを実施したと思われる。

Parallels to results of earlier research

- ・ 本研究の結果は生理指標を用いた Stotland(1969)とも、省略版(?)を用いた Schoenrade(1981)とも適合するので、信頼性や妥当性は高い。

Doubts about demand

- ・ どの視点をとるべきか伝えられた参加者たちが、どのような感情反応を報告すべきかを考えて結果が出たとは考えられないだろうか？
- ・ 実験者は参加者がどの条件に割り当てられたかを知らなかったし、教示の中にどんな感情を抱くべきか、抱き得るかというヒントは示されていなかった。
- ・ また、この結果は生理指標を用いた研究(Stotland, 1969)とも矛盾しないし、デマンドの結果として出てきやすい性差も見られていない。よって、デマンドは生じていないだろう。

Beyond emotion: Motivational consequences of the two perspectives

- ・ imagine-other 条件では、純粋な共感が得られており、これは相対的に純粋な愛他的動機を導くと考えられる。逆に、imagine-self 条件では混じりあった感情が生じており、これは愛他的動機と自己本位(egoistic)な動機の両方につながると考えられる。
imagine-self の視点取得は、
 - 一方で他者の感情を知るための足がかりとなり、共感、そして愛他的動機の高まりを導く。ただし、一度自分の感情に焦点をあててしまうと、誤った形でそれを他人にあてはめてしまう危険がある。
 - また一方では、他人の状況に置かれた場合の自分自身の苦痛を想像することは、そのネガティブ感情を緩和しようとする自己本位の動機を高めるだろう
- ・ imagine-self によって生じた二種類の動機の高まりは、imagine-other によって生じた単一の動機の高まりよりも強いため、前者のほうが援助行動を導きやすいだろう。
- ・ しかし、共感と個人的苦痛といった理論的な問題に興味があるのなら、後者で純粋な共感の生起を検討の方が望ましいだろう。

Conclusion(略)